

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1学年用）教科 アートクラフト 科目 AC I

教科：アートクラフト 科目：AC I 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組～組

教科担当者：（A組：）（A組：）

使用教科書：（デザインの色彩）

教科 アートクラフト の目標：

【知識及び技能】彫金・鍛金・鋳造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通して造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につける

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 AC I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
彫金・鍛金・鋳造の金属工芸技法、美術史の基礎を理解し、実材実習での制作を通して造形美を探究する	各種材料と加工方法の適正を考える力を身につける。美術作品の観察を通して思考、表現力を身につける	素材や作品を大切に扱う姿勢と自分らしい造形力を養い、世に有意義なアート思考や作品制作、仕事ができる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	接合に関する理論的かつ実践的な能力を身につける	・軟ろう付け、硬ろう付け、アーケ溶接、ガス溶接、電気抵抗溶接、鍛接 ・Ipadを活用した金属材料に関する調べ学習	【知識・技能】接合に関する基礎的な知識と技能を習得し、接合について理解できる 【思考・判断・表現】実習で活用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 接合時に使用する金属材料に関する調べ学習ができる	○	○	○	8
	鍛金技法に関する理論的かつ実践的な能力を身につける	・絞り技法 ・Ipadを活用した金属材料に関する調べ学習	【知識・技能】絞り技法に関する基礎的な知識と技能を習得し、絞り技法について理解できる 【思考・判断・表現】実習で発展的に活用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 鍛金技法で使用する金属材料に関する調べ学習ができる	○	○	○	9
	鋳金技法に関する理論的かつ実践的な能力を身につける	・鋳金技法 ・Ipadを活用した金属材料に関する調べ学習	【知識・技能】鋳金技法に関する基礎的な知識と技能を習得し、鋳金技法について理解できる 【思考・判断・表現】実習で発展的に活用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 鋳金技法で使用する金属材料に関する調べ学習ができる	○	○	○	9
2 学 期	彫金技法に関する理論的かつ実践的な能力を身につける	・彫金技法 ・Ipadを活用した金属材料に関する調べ学習	【知識・技能】彫金技法に関する基礎的な知識と技能を習得し、彫金技法について理解できる 【思考・判断・表現】実習で発展的に活用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 彫金技法で使用する金属材料に関する調べ学習ができる	○	○	○	9
	表面処理に関する理論的かつ実践的な能力を身につける	・金、銀鍍金について ・Ipadを活用した銅、銀合金、鉄、アルミ、その他の金属に関する調べ学習	【知識・技能】表面処理に関する基礎的な知識と技能を習得し、表面処理について理解できる 【思考・判断・表現】実習で発展的に活用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 表面処理で使用する金属材料に関する調べ学習ができる	○	○	○	9
	色彩に関する理論的かつ実践的な能力を身につける	・表色系 ・三原色 ・補色、対比	【知識・技能】色彩に関する基礎的な知識と技能を習得し、色彩について理解できる 【思考・判断・表現】色彩構成作品を制作することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 色彩構成作品についてプレゼンテーションすることができる	○	○	○	9
3 学 期	美術・工芸・デザイン作品に関する思考力を身に着ける	・原始から古代、中世の美術 ・Ipadを活用した美術作品に関する鑑賞学習	【知識・技能】美術史に関する基礎的な知識と技能を習得し、美術史について理解できる 【思考・判断・表現】美術の起源について思考することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 美術作品に関するIpadを活用した鑑賞学習ができる	○	○	○	8
	美術・工芸・デザイン作品に関する思考力を身に着ける	・ルネッサンス、マニエリスム、バロック、ロココの美術 ・Ipadを活用した美術作品に関する鑑賞学習	【知識・技能】美術史に関する基礎的な知識と技能を習得し、美術史について理解できる 【思考・判断・表現】近現代の作品へ至る美術史の流れをルネッサンス期から写実主義の美術作品から思考することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 美術作品に関するIpadを活用した鑑賞学習ができる	○	○	○	9
	美術・工芸・デザイン作品に関する思考力を身に着ける	・近現代の美術、デザイン ・Ipadを活用した美術作品に関する鑑賞学習	【知識・技能】美術史に関する基礎的な知識と技能を習得し、美術史について理解できる 【思考・判断・表現】近現代の作品の観察を通して思考、表現することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 美術作品に関するIpadを活用した鑑賞学習ができる	○	○	○	8
							合計 78

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 アートクラフト 科目 実習A

教 科： アートクラフト 科 目： 実習A

单位数： 4 单位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ 組

教科担当者：（ A組： ） （ A組： ） （ A組： ） （A 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

【知 識 及 び 技 能】彫金・鍛金・鑄造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢とより自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 実習A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来る。	寸法通りに打出しやロウ付けが出来る。変形絞りができる。精密鑄造の技法を理解し丁寧な素材加工ができる。ガラスの特性を理解し丁寧に制作できる。	貴重な金属材料での制作の意義と歴史的名品の造形美を踏まえ、粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	「彫金」金属板や線材で植物の立体彫刻を制作させる。 「鍛金」銅板で動物の変形絞り制作をさせる。 「鑄金」ロストワックス技法によるスターリングシルバージュエリーを制作させる。 「ガラス」器の粘土原型と色ガラスを用いたパート・ド・ヴェール作品を制作させる。	彫金・鍛金・鑄造・ガラス技法	【知識・技能】制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来る。 【思考・判断・表現】寸法通りに打出しやロウ付けが出来る。変形絞りができる。精密鑄造の技法を理解し丁寧な素材加工ができる。ガラスの特性を理解し丁寧に制作できる。 【主体的に学習に取り組む態度】貴重な金属材料での制作の意義と歴史的名品の造形美を踏まえ、粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。	○	○	○	16
				○	○	○	20
				○	○	○	20
2 学 期	「彫金」金属板や線材で植物の立体彫刻を制作させる。 「鍛金」銅板で動物の変形絞り制作をさせる。 「鑄金」ロストワックス技法によるスターリングシルバージュエリーを制作させる。 「ガラス」器の粘土原型と色ガラスを用いたパート・ド・ヴェール作品を制作させる。	彫金・鍛金・鑄造・ガラス技法	【知識・技能】制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来る。 【思考・判断・表現】寸法通りに打出しやロウ付けが出来る。変形絞りができる。精密鑄造の技法を理解し丁寧な素材加工ができる。ガラスの特性を理解し丁寧に制作できる。 【主体的に学習に取り組む態度】貴重な金属材料での制作の意義と歴史的名品の造形美を踏まえ、粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。	○	○	○	20
				○	○	○	20
				○	○	○	16
3 学 期	「彫金」金属板や線材で植物の立体彫刻を制作させる。 「鍛金」銅板で動物の変形絞り制作をさせる。 「鑄金」ロストワックス技法によるスターリングシルバージュエリーを制作させる。 「ガラス」器の粘土原型と色ガラスを用いたパート・ド・ヴェール作品を制作させる。	彫金・鍛金・鑄造・ガラス技法	【知識・技能】制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来る。 【思考・判断・表現】寸法通りに打出しやロウ付けが出来る。変形絞りができる。精密鑄造の技法を理解し丁寧な素材加工ができる。ガラスの特性を理解し丁寧に制作できる。 【主体的に学習に取り組む態度】貴重な金属材料での制作の意義と歴史的名品の造形美を踏まえ、粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。	○	○	○	16
				○	○	○	20
				○	○	○	8
				○	○	○	合計
							156

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 アートクラフト 科目 実習B

教 科： アートクラフト 科 目： 実習B 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ 組

教科担当者：（ A組： ） （ A組： ） （ A組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】彫金・鍛金・鑄造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する
- 【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する
- 【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢とより自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 実習B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
石留めとゴム型を丁寧に制作できる。正確な図形転写と色彩を再現できる。文様の描き方を理解しイメージ通りの作品ができる。	ジュエリーの石留めとゴム型制作の技法を理解する。絵画の色彩と構成を理解する。装飾的な構成を学び、丁寧な制作を行う。	貴重な金属材料・宝石での制作の意義、歴史的名品の造形美、粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	ワックスで原型を制作して、鑄造後仕上げる。図形を転写し、絵の具で色彩を再現させる。細密ペンを使用して、平面構成を行う。	石留め・絵画模写・デザイン	【知識・技能】石留めとゴム型を丁寧に制作できる。 【思考・判断・表現】正確な図形転写と色彩を再現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 文様の描き方を理解しイメージ通りの作品ができる。	○	○	○	8
				○	○	○	9
				○	○	○	9
2 学 期	ワックスで原型を制作して、鑄造後仕上げる。図形を転写し、絵の具で色彩を再現させる。細密ペンを使用して、平面構成を行う。	石留め・絵画模写・デザイン	【知識・技能】石留めとゴム型を丁寧に制作できる。 【思考・判断・表現】正確な図形転写と色彩を再現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 文様の描き方を理解しイメージ通りの作品ができる。	○	○	○	9
				○	○	○	9
				○	○	○	9
3 学 期	ワックスで原型を制作して、鑄造後仕上げる。図形を転写し、絵の具で色彩を再現させる。細密ペンを使用して、平面構成を行う。	石留め・絵画模写・デザイン	【知識・技能】石留めとゴム型を丁寧に制作できる。 【思考・判断・表現】正確な図形転写と色彩を再現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 文様の描き方を理解しイメージ通りの作品ができる。	○	○	○	8
				○	○	○	9
				○	○	○	8
						合計	
						78	

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

アートクラフト 科目 工業情報数理

教科： アートクラフト 科目： 工業情報数理

単位数： 2 単位 2

対象学年組：第 2 学年 A 組～ 組

教科担当者：（ A組： ） （ A組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ 工業情報数理 実教出版 ）

教科 アートクラフト の目標：

【知識及び技能】彫金・鍛金・鋳造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢とより自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 工業情報数理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
OSの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。 ワープロ、表計算、プレゼンテーション用ソフトウェア、画像処理用ソフトウェア、プログラムについて理解し、活用することができる。	各種ソフトウェアの適正を考え、表現の試行錯誤をすることができる。 学んだ知識を基にして、応用できる力を身につけ実践することができる。	課題や作業を通して、ネット素材を価値あるものとして扱う姿勢をとり、より自分らしい発想力を養うことによって、主体的で個性的かつ効果的な学びを得ることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 WindowsとMac 【知識及び技能】 Windows・Macの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各種ソフトウェアの適正を考え、表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 ネット素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	・指導事項 ログインアカウントやパスワードの重要性、個人データの扱いと著作権について。	【知識・技能】 各授業課題を使い、基礎的知識と基本となる技能を学ぶ。 【思考・判断・表現】 演習を通して試行錯誤をし、判断したことを表現する力につなげることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の機会を通じて、個性ある作品制作ができる。より効果的かつ多面的に自己の特徴を発見し、自主的な学びをおこなうことができる。	○	○	○	26
	定期考査なし	定期考査なし	定期考査なし				0
2 学 期	A 単元 HP作成 【知識及び技能】 HP作成における基礎的な知識を理解し、実践することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 プログラムの適正を考え、表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 ネット素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	・指導事項 個人データの扱いと著作権について。	【知識・技能】 各授業課題を使い、基礎的知識と基本となる技能を学ぶ。 【思考・判断・表現】 演習を通して試行錯誤をし、判断したことを表現する力につなげることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題を通じて、個性ある作品制作ができる。より効果的かつ多面的に自己の特徴を発見し、自主的な学びをおこなうことができる。	○	○	○	26
	定期考査なし	定期考査なし	定期考査なし				0
3 学 期	A 単元 プレゼンテーション発表 【知識及び技能】 プレゼンテーション用ソフトウェアの特色と使い方の応用を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 より効果的なプレゼンテーションをするために、表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 有意義で個性ある作品制作ができる。	・指導事項 ログインアカウントやパスワードの重要性、個人データの扱いと著作権について。	【知識・技能】 各授業課題を使い、基礎的知識と応用となる技能を学ぶ。 【思考・判断・表現】 演習を通して試行錯誤をし、判断したことを表現する力につなげることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題や発表の機会を通じて、個性ある作品制作ができる。より効果的かつ多面的に自己の特徴を発見し、自主的な発表をおこなうことができる。				26
	定期考査なし	定期考査なし	定期考査なし				合計 78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科

アートクラフト 科目 ACⅡ

教科： アートクラフト 科目： ACⅡ

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】彫金・鍛金・鋳造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する
- 【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する
- 【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢とより自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 ACⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
I 学年で学んだ色彩の基礎理論を発展させる。各種象徴の意味と特色を理解する	空間構成において美的な表現力を獲得する。象徴の図像化の様式美を理解する	美的象徴を利用した作品制作をする

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	美的象徴について	美的象徴の具体例を理解する。動植物について	【知識・技能】各種象徴の意味と特色を理解できたか 【思考・判断・表現】象徴の図像化の様式美を理解できたか	○	○	○	4
	美的象徴について	事物、ヴァニタスについて	【主体的に学習に取り組む態度】象徴を利用した作品制作が出来たか	○	○	○	5
	美的象徴について	西洋と東洋の比較		○	○	○	4
	美的象徴について	西洋と東洋の比較		○	○	○	4
2 学 期	色彩学の応用	「デザインの色彩」を用いて色彩を理論的に理解する。補色・色相環の対比を理解する。	【知識・技能】I 学年で学んだ色彩の基礎理論を発展させる。 【思考・判断・表現】空間構成において美的な表現力を獲得する。	○	○	○	6
	幾何形体の平面構成	黄金矩形、正方形画面の平面構成。	【主体的に学習に取り組む態度】構成を利用した制作ができたか	○	○	○	6
3 学 期	花言葉と図像について	絵画を鑑賞して図像を理解する	【知識・技能】花言葉と図像を理解できたか 【思考・判断・表現】身の回りの象徴を意識することが出来たか	○	○	○	5
			【主体的に学習に取り組む態度】象徴を利用した作品制作が出来たか	○	○	○	5
							合計 39

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用）教科

アートクラフト 科目 AD I

教科 科：アートクラフト

科目：AD I

単位数：2 単位 2

対象学年組：第 2 学年 A 組～

教科担当：（ A組 ）（ 組 ）（ 組 ）（ 組 ）（ 組 ）（ 組 ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト

の目標：

【知識及び技能】彫金・鍛金・鋳造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢とより自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 AD I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
三视图を養い、透視図法を理解し、自分で考えた作品を効果的にプレゼンテーションすることができる。	ユニバーサルデザインについて考え、効果的な思いを表現することができる。 各自の考えたテープカッター等の製品デザインを図面及びレンダリングで表現できる。	全ての人に使いやすい商品や、環境を考えてデザインをすることにより、想像力を養い、有意義で個性ある作品制作ができる。制作において自身が考えた思いを効果的に発表できるようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	総点 配分
Ⅰ 単元 一点透視図法 【知識及び技能】 一点透視図の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 一点透視図の表示法を学び、課題を作成する。 ・教材 プリント	【知識・技能】 一点透視図の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考・判断・表現】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 透視図を利用した課題制作が提出期限内に出来たか。	○	○	○	4
Ⅱ 単元 二点透視図 【知識及び技能】 二点透視図の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 二点透視図の表示法を学び、課題を作成する。 ・教材 プリント	【知識・技能】 二点透視図の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考・判断・表現】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 透視図を利用した課題制作が提出期限内に出来たか。	○	○	○	6
定期考査なし	定期考査なし	定期考査なし				0
Ⅲ 単元 四の透視図法 【知識及び技能】 四の透視図の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 四の透視図の表示法を学び、課題を作成する。 ・教材 プリント	【知識・技能】 四の透視図の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考・判断・表現】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 透視図を利用した課題制作が提出期限内に出来たか。	○	○	○	4
Ⅳ 単元 複雑な立体物の透視図法 【知識及び技能】 複雑な立体物の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 複雑な立体物の表示法を学び、課題を作成する。 ・教材 プリント	【知識・技能】 複雑な立体物の表示法を学び、課題を作成することができる。 【思考・判断・表現】 透視図法を理解し、図面上で正しく描き起こして表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 透視図を利用した課題制作が提出期限内に出来たか。	○	○	○	12
定期考査なし	定期考査なし	定期考査なし				0
Ⅴ 単元 トロフィーデザイン 【知識及び技能】 トロフィーのデザインを考え、複雑な立体物を製図することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各自の思いを持ったトロフィーデザインを考え、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 表現されるものごとについて深く考え、自己の個性を発見することができる。また、提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 トロフィーのデザインを考え、複雑な立体物の透視図法を学び、課題を作成する。	【知識・技能】 トロフィーのデザインを考え、複雑な立体物を製図することができる。 【思考・判断・表現】 各自の思いを持ったトロフィーデザインを考え、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現されるものごとについて深く考え、自己の個性を発見することができる。また、提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	10
Ⅵ 単元 トロフィーデザインプレゼン 【知識及び技能】 自作した作品をプレゼンする方法を理解し、課題を作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各自の考えたトロフィーデザインを透視図法及びレンダリングで表現できる。 デザインの思いを生かした、効果的なプレゼン表現をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 自作した作品をプレゼンする方法を理解し、課題を作成する。	【知識・技能】 自作した作品をプレゼンする方法を理解し、課題を作成することができる。 【思考・判断・表現】 各自の考えたトロフィーデザインを透視図法及びレンダリングで表現できる。 デザインの思いを生かした、効果的なプレゼン表現をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現されるものごとについて深く考え、自己の個性を発見することができる。また、提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	10
Ⅶ 単元 ハイライトドローイング 【知識及び技能】 ハイライトドローイング、ペンシルドローイングを理解し、課題を作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 黒と白の色彩の中で効果的な表現をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 ハイライトドローイング、ペンシルドローイングを理解し、課題を作成する。	【知識・技能】 ハイライトドローイング、ペンシルドローイングを理解し、課題を作成することができる。 【思考・判断・表現】 ハイライトドローイング、ペンシルドローイングを理解し、課題を作成することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	6
定期考査なし	定期考査なし	定期考査なし				0
Ⅷ 単元 テープカットデザイン 【知識及び技能】 テープカッターのデザインを考え、複雑な立体物を製図することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ユニバーサルデザインについて考え、効果的な思いを表現することができる。 各自のテープカッターのデザインを考え、表現することができる。 各自の思いを持ったトロフィーデザインを考え、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ユニバーサルデザインについても考え、多くの人の視点から考えることで、豊かな人間性を養うことができる。また、提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 テープカッターのデザインを考え、複雑な立体物の透視図法を学び、課題を作成する。	Ⅷ 単元 テープカットデザイン 【知識・技能】 テープカッターのデザインを考え、複雑な立体物を製図することができる。 【思考・判断・表現】 ユニバーサルデザインについて考え、効果的な思いを表現することができる。 各自のテープカッターのデザインを考え、表現することができる。 各自の思いを持ったトロフィーデザインを考え、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ユニバーサルデザインについても考え、多くの人の視点から考えることで、豊かな人間性を養うことができる。また、提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	12
Ⅸ 単元 テープカッターデザインプレゼン 【知識及び技能】 自作した作品をプレゼンする方法を理解し、課題を作成することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ユニバーサルデザインについて考え、効果的な思いを表現することができる。 各自の考えたテープカッター等の製品デザインを透視図法及びレンダリングで表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 多くの人の視点から考えることで、豊かな人間性を養うことができる。また、提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	・指導事項 自作した作品をプレゼンする方法を理解し、課題を作成する。	【知識・技能】 自作した作品をプレゼンする方法を理解し、課題を作成することができる。 【思考・判断・表現】 ユニバーサルデザインについて考え、効果的な思いを表現することができる。 各自の考えたテープカッター等の製品デザインを透視図法及びレンダリングで表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 多くの人の視点から考えることで、豊かな人間性を養うことができる。また、提出期限内に計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	14
合計						78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科

アートクラフト 科目 造形

教 科：アートクラフト 科 目：造形

単位数：2 単位 2

対象学年組：第 2 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 アートクラフト の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】彫金・銀金・鍍金・鋳造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢とより自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 造形 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
粘土や紙などの素材の扱いに慣れると共に、美術史に裏付けされた人体や物の構造を意識しながら、造形することができる。	モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。	対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A プラシワロボンボンから学ぶ造形【張り子】 【知識及び技能】 心棒や粘土、紙などの素材の扱いに慣れると共に、美術史に裏付けされた動物の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	造形に関しての美術史。 しっかりと心棒のつくりにかたについて。 油粘土のとり扱いについて	【知識・技能】 心棒や粘土、紙などの素材の扱いに慣れると共に、美術史に裏付けされた動物の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考・判断・表現】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができるか。計画的に課題制作を行うことができるか。	○	○	○	20
	B 塑像【種子の土鈴】 【知識及び技能】 粘土の素材の扱いや特性に慣れると共に、美術史に裏付けされた植物の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	造形に関しての美術史。 焼成粘土のとり扱いについて	【知識・技能】 粘土の素材の扱いや特性に慣れると共に、美術史に裏付けされた植物の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考・判断・表現】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができるか。計画的に課題制作を行うことができるか。	○	○	○	6
2 学 期	A 塑像【仏様の手】 【知識及び技能】 粘土の素材の扱いや特性に慣れると共に、美術史に裏付けされた人体の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	造形に関しての日本における美術史。 焼成粘土のとり扱いについて	【知識・技能】 粘土の素材の扱いや特性に慣れると共に、美術史に裏付けされた人体の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考・判断・表現】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができるか。計画的に課題制作を行うことができるか。	○	○	○	18
	B クリストから学ぶ造形の側面 【知識及び技能】 美術作品について学ぶと共に、現代アートの造形の歴史を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 モチーフの象徴性を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 対象物を表現するために何が必要かを考え、造形の持つ意味性を考えることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	現代アートに関しての造形史。	【知識・技能】 美術作品について学ぶと共に、現代アートの造形の歴史を学ぶことができる。 【思考・判断・表現】 モチーフの象徴性を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 対象物を表現するために何が必要かを考え、造形の持つ意味性を考えることができるか。計画的に課題制作を行うことができるか。	○	○	○	8
3 学 期	A カメオ【顔】 【知識及び技能】 素材の扱いに慣れると共に、象徴に裏付けされた装飾彫刻を造形することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	象徴彫刻に関しての美術史。 ビュースターのとり扱いについて	【知識・技能】 素材の扱いに慣れると共に、象徴に裏付けされた装飾彫刻を造形することができる。 【思考・判断・表現】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができるか。計画的に課題制作を行うことができるか。	○	○	○	12
	B カメオ【目刻像】 【知識及び技能】 粘土の素材の扱いや特性に慣れると共に、美術史に裏付けされた人体の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	象徴彫刻に関しての美術史。 油粘土と型取り、石膏のとり扱いについて	【知識・技能】 粘土の素材の扱いや特性に慣れると共に、美術史に裏付けされた人体の構造を意識しながら、造形することができる。 【思考・判断・表現】 モチーフの印象を理解し、立体表現をするにあたっての方法を選択し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 対象物を表現するために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができるか。計画的に課題制作を行うことができるか。	○	○	○	14 合計 78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 アートクラフト 科目 デッサンⅠ

教 科： アートクラフト 科 目： デッサンⅠ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 アートクラフト の目標：

【知 識 及 び 技 能】彫金・鍛金・鋳造の金属工芸技法の基礎を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢とより自分らしい造形力を養い、世に有意義な作品制作や仕事ができる

科目 デッサンⅠ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する	短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る	形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	木炭デッサンの描き方を理解し対象物を立体表現する 石膏像（胸像）	木炭紙と木炭の芯抜きの基本 立体表現の為の稜線の描き方	【知識・技能】画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する 【思考・判断・表現】短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る 【主体的に学習に取り組む態度】形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する	○	○	○	12
	石膏像（胸像）	立体表現の為の稜線の描き方		○	○	○	12
2 学 期	石膏像（胸像）	立体表現の為の稜線の描き方	【知識・技能】画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する 【思考・判断・表現】短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る 【主体的に学習に取り組む態度】形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する	○	○	○	14
	ベルヴェデーレ、ミロのヴィーナス（石膏全身像）	立体表現の為の稜線の描き方		○	○	○	16
3 学 期	ベルヴェデーレ、ミロのヴィーナス（石膏全身像）	立体表現の為の稜線の描き方	【知識・技能】画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する 【思考・判断・表現】短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る 【主体的に学習に取り組む態度】形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する	○	○	○	12
	ベルヴェデーレ、ミロのヴィーナス（石膏全身像）	立体表現の為の稜線の描き方		○	○	○	12
							合計 78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 アートクラフト 科目 鍛金

教 科： アートクラフト 科 目： 鍛金 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する
- 【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する
- 【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 鍛金 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
単純な形の成形をイメージとおりに行う。	各種材料と加工方法の適正を考え、個性的な意匠を試行錯誤出来る力を身につける	粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	本体の地金取り・焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作	【知識・技能】単純な形の成形をイメージとおりにできたか 【思考・判断・表現】材料と加工方法の適正を考え試行錯誤し、個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】効率の良い制作手順を意識して、計画的に粘り強く丁寧に制作することができたか	○	○	○	8
	焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作		○	○	○	10
	焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作		○	○	○	10
	取手の焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作		○	○	○	8
2 学 期	本体の地金取り・焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作	【知識・技能】単純な形の成形をイメージとおりにできたか 【思考・判断・表現】材料と加工方法の適正を考え試行錯誤し、個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】効率の良い制作手順を意識して、計画的に粘り強く丁寧に制作することができたか	○	○	○	12
	焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作		○	○	○	12
3 学 期	焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作	【知識・技能】単純な形の成形をイメージとおりにできたか 【思考・判断・表現】材料と加工方法の適正を考え試行錯誤し、個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】効率の良い制作手順を意識して、計画的に粘り強く丁寧に制作することができたか	○	○	○	10
	取手の焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	鍛金 銅製片手鍋の製作		○	○	○	8
							合計 78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科

アートクラフト 科目 AC研究

教科： アートクラフト 科目： AC研究

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する
- 【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する
- 【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 AC研究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的なとんぼ玉の制作技法を習得する。	各種材料と加工方法の適正を考え、個性的な意匠を試行錯誤出来る力を身につける	粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	理型材、ガラス融解用具の扱い方を学ぶ	トンボ玉	【知識・技能】基本的なとんぼ玉の制作技法を習得できたか 【思考・判断・表現】材料と加工方法の適正を考え試行錯誤し、個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】効率の良い制作手順を意識して、計画的に粘り強く丁寧に制作することができたか	○	○	○	8
	基本的な玉の作り方を学ぶ	トンボ玉		○	○	○	10
	基本的な玉の作り方を学ぶ	トンボ玉		○	○	○	10
	基本的な玉の作り方を学ぶ	トンボ玉		○	○	○	8
2 学 期	レース玉を作るなど技法の展開を図る	トンボ玉	【知識・技能】基本的なとんぼ玉の制作技法を習得できたか 【思考・判断・表現】材料と加工方法の適正を考え試行錯誤し、個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】効率の良い制作手順を意識して、計画的に粘り強く丁寧に制作することができたか	○	○	○	12
	レース玉を作るなど技法の展開を図る	トンボ玉		○	○	○	12
3 学 期	動物などパーツが多く難易度の高い技法を習得する	トンボ玉	【知識・技能】基本的なとんぼ玉の制作技法を習得できたか 【思考・判断・表現】材料と加工方法の適正を考え試行錯誤し、個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】効率の良い制作手順を意識して、計画的に粘り強く丁寧に制作することができたか	○	○	○	10
	動物などパーツが多く難易度の高い技法を習得する	トンボ玉		○	○	○	8
							合計
							78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 アートクラフト 科目 Ac II

教科： アートクラフト 科目： Ac II 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A 組： ） （A 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する
- 【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する
- 【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 Ac II の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
宝石の基礎知識を学ぶ	個性的な意匠を試行錯誤出来る力を身につける	粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	彩色表現	宝石の基礎知識	【知識・技能】宝石の特色を理解できたか 【思考・判断・表現】表現方法を模索し、丁寧な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】グループ作業で個々の考えを構築できたか	○	○	○	8
	ダイヤモンドの基礎知識	宝石の基礎知識		○	○	○	10
	パール・ベリルの基礎知識	宝石の基礎知識		○	○	○	10
	フェルドスパーの基礎知識	宝石の基礎知識		○	○	○	8
2 学 期	展開図を応用したパッケージ 宝石の基礎知識について調べる	宝石調べ学習	【知識・技能】宝石の特色を理解できたか 【思考・判断・表現】表現方法を模索し、丁寧な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】グループ作業で個々の考えを構築できたか	○	○	○	12
	平面から立体を想像し展開図へ 調べた内容を模造紙にまとめ、プレゼン	宝石調べ学習		○	○	○	12
3 学 期	展開図の製図・組み立て・着色 アンティークジュエリーについて調べる	アンティークジュエリー調べ学習	【知識・技能】宝石の特色を理解できたか 【思考・判断・表現】表現方法を模索し、丁寧な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】グループ作業で個々の考えを構築できたか	○	○	○	10
	展開図の製図・組み立て・着色。 作品の意味合いを探究する 調べた内容を模造紙にまとめ、プレゼン	アンティークジュエリー調べ学習		○	○	○	8
							合計 78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 アートクラフト 科目 AD

教 科： アートクラフト 科 目： AD 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する
- 【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する
- 【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 AD の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
金属加工に適した構成や色彩の基礎理論を理解し、図案を制作出来る	各種材料と加工方法の適正を考え、個性的な意匠を試行錯誤出来る力を身につける	粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）	【知識・技能】文様の装飾性を理解できたか 【思考・判断・表現】個性的な文様作成ができたか	○	○	○	8
	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）	【主体的に学習に取り組む態度】主題に即した図案のために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	10
	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）		○	○	○	10
	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）		○	○	○	8
2 学 期	コインデザインの意匠を作成させる	コインデザインの図案制作	【知識・技能】文様の装飾性を理解できたか 【思考・判断・表現】個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】主題に即した図案のために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	12
	コインデザインの意匠を作成させる	コインデザインの図案制作		○	○	○	12
3 学 期	色彩についての理解を深め、質感表現と平面上での立体表現を学ばせる。	立体構成	【知識・技能】文様の装飾性を理解できたか 【思考・判断・表現】個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】主題に即した図案のために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	10
	色彩についての理解を深め、質感表現と平面上での立体表現を学ばせる。	立体構成		○	○	○	8
							合計
							78

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科
アートクラフト 科目 AD

教 科： アートクラフト
 科 目： AD
 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者： （A 組： ）

使用教科書： （ なし ）

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
金属加工に適した構成や色彩の基礎理論を理解し、図案を制作出来る	各種材料と加工方法の適正を考え、個性的な意匠を試行錯誤出来る力を身につける	粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）	【知識・技能】文様の装飾性を理解できたか 【思考・判断・表現】個性的な文様作成ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】主題に即した図案のために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	8
	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）		○	○	○	10
	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）		○	○	○	10
	唐草文様の意匠を作成させる	唐草文様の構成演習（図案・蓋制作）		○	○	○	8
2 学 期	コインデザインの意匠を作成させる	コインデザインの図案制作	【知識・技能】文様の装飾性を理解できたか 【思考・判断・表現】個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】主題に即した図案のために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	12
	コインデザインの意匠を作成させる	コインデザインの図案制作		○	○	○	12
3 学 期	色彩についての理解を深め、質感表現と平面上での立体表現を学ばせる。	立体構成	【知識・技能】文様の装飾性を理解できたか 【思考・判断・表現】個性的な制作ができたか 【主体的に学習に取り組む態度】主題に即した図案のために何が必要かを考え、丁寧に工程を積み重ねることができる。計画的に課題制作を行うことができる。	○	○	○	10
	色彩についての理解を深め、質感表現と平面上での立体表現を学ばせる。	立体構成					8
				合計			
							78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 アートクラフト 科目 実習A

教 科： アートクラフト 科 目： 実習A 単位数： 5 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（ A組： ） （ A組： ） （ A組： ） （ A 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 アートクラフト の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する
- 【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する
- 【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 実習A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来る。	モチーフらしい形体感を表現出来る。鉄の特性を生かした加工が出来る。七宝技法を理解し丁寧な加工ができる。図面を基に丁寧に制作できる。	貴重な素材での制作の意義と歴史的名品の造形美を踏まえ、粘り強く丁寧に制作することの大切さを理解する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	「デッサン」 芸大、美大合格水準のデッサン力を身につける。 「鍛鉄」鉄の素材を生かした加工法を身につける 「七宝」有線七宝の基本技術の修得が成され、鑑賞に耐える高度な作品制作をする。 「テープカッター」デザインに応じた適切な方法で完成させる。	「デッサン」石膏・静物鉛筆デッサン 「鍛鉄」椅子、机、窓装飾等の実用品の制作 「七宝」有線七宝装飾板の制作 「テープカッター」2年次設計のテープカッター製作	【知識・技能】制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来たか。 【思考・判断・表現】モチーフらしい形体感を表現出来たか。鉄の特性を生かした加工が出来たか。七宝技法を理解し丁寧な加工が出来たか。図面を基に丁寧に制作出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】無駄のない材料の活用を考え粘り強く丁寧に制作することが出来たか。	○	○	○	24
				○	○	○	24
				○	○	○	24
2 学 期	「デッサン」 芸大、美大合格水準のデッサン力を身につける。 「鍛鉄」鉄の素材を生かした加工法を身につける 「七宝」有線七宝の基本技術の修得が成され、鑑賞に耐える高度な作品制作をする。 「テープカッター」デザインに応じた適切な方法で完成させる。	「デッサン」石膏・静物鉛筆デッサン 「鍛鉄」椅子、机、窓装飾等の実用品の制作 「七宝」有線七宝装飾板の制作 「テープカッター」2年次設計のテープカッター製作	【知識・技能】制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来たか。 【思考・判断・表現】モチーフらしい形体感を表現出来たか。鉄の特性を生かした加工が出来たか。七宝技法を理解し丁寧な加工が出来たか。図面を基に丁寧に制作出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】無駄のない材料の活用を考え粘り強く丁寧に制作することが出来たか。	○	○	○	24
				○	○	○	24
				○	○	○	24
3 学 期	「デッサン」 芸大、美大合格水準のデッサン力を身につける。 「鍛鉄」鉄の素材を生かした加工法を身につける 「七宝」有線七宝の基本技術の修得が成され、鑑賞に耐える高度な作品制作をする。 「テープカッター」デザインに応じた適切な方法で完成させる。	「デッサン」石膏・静物鉛筆デッサン 「鍛鉄」椅子、机、窓装飾等の実用品の制作 「七宝」有線七宝装飾板の制作 「テープカッター」2年次設計のテープカッター製作	【知識・技能】制作の為の資料収集と各素材の加工法を理解して、美しい作品を制作出来たか。 【思考・判断・表現】モチーフらしい形体感を表現出来たか。鉄の特性を生かした加工が出来たか。七宝技法を理解し丁寧な加工が出来たか。図面を基に丁寧に制作出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】無駄のない材料の活用を考え粘り強く丁寧に制作することが出来たか。	○	○	○	24
				○	○	○	24
							3
				○	○	○	合計
							195

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科

アートクラフト 科目 光造形

教科： アートクラフト 科目： 光造形 単位数： 2 単位 2

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（ A組： ） （ A組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 アートクラフト の目標：

【知識及び技能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 光造形 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
CGソフト、造形機の使い方や取り扱いを学習する。	ジュエリーのデザイン力を高める。 デザイン、造形、加工と実際の作業工程を学び、知識を高める。	学んだ技法で作品制作をする。 CADの特性を生かした造型感覚を習得する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	ソフトの操作方法を習得させる。デザイン画製作。CADの特性を理解させる。3Dデザインソフトの使い方CADの特性を生かしたジュエリーを制作させる。	コンピュータの使い方 CGソフトの使い方 CGにおけるジュエリーデザインについて	【知識及び技能】CGソフト、造形機の使い方や取り扱いが出来る。 【思考力、判断力、表現力等】 個性的なジュエリーのデザインが出来る。 デザイン、造形、加工と実際の作業工程を学び、知識を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 学んだ技法で作品制作ができる。CADの特性を生かした造型感覚を習得する。	○	○	○	26
2 学 期	光造形ソフトの使い方と理解。光造形機データに変換処理。光造型機による原型制作と鋳造石膏鋳造、ロストワックス、表面処理法など。	造形加工について 表面処理について	【知識及び技能】CGソフト、造形機の使い方や取り扱いが出来る。 【思考力、判断力、表現力等】 個性的なジュエリーのデザインが出来る。 デザイン、造形、加工と実際の作業工程を学び、知識を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 学んだ技法で作品制作ができる。CADの特性を生かした造型感覚を習得する。	○	○	○	26
3 学 期	研磨、仕上げ加工を行う。	研磨、仕上げ加工を行う。	【知識及び技能】CGソフト、造形機の使い方や取り扱いが出来る。 【思考力、判断力、表現力等】 個性的なジュエリーのデザインが出来る。 デザイン、造形、加工と実際の作業工程を学び、知識を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 学んだ技法で作品制作ができる。CADの特性を生かした造型感覚を習得する。				26
							合計
							78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 アートクラフト 科目 プレゼン

教 科： アートクラフト 科 目： プレゼン 単位数： 2 単位 2

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（ A組： ） （ A組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 アートクラフト の目標：

【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 プレゼン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
写真編集・ページレイアウトソフトの使い方を理解し、使用することができる。	進路先に適したポートフォリオを制作することができる。 表現の試行錯誤をすることができる。 学んだ知識を基にして、応用できる力を身につけ実践することができる。	課題や作業を通して、より自分らしい発想力を養うことによって、主体的で個性的かつ効果的な学びを得ることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	ポートフォリオを制作する コンセプト、ページ校正を考えさせる 作品の写真撮影、ライティング 編集・校正	映像機器の使い方と注意事項 作品の写真撮影、ライティング 編集・校正	【知識及び技能】 カメラ、編集ソフトの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 進路先に適した内容での表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	○	○	○	26
2 学 期	校正内容の確認 ターゲット、ページ数、コンセプト	アートクラフト科のパンフレットを制作する	【知識及び技能】 カメラ、編集ソフトの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 分かり易い内容での表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	○	○	○	26
3 学 期	作品の写真撮影と紙面編集	アートクラフト科のパンフレットを制作する	【知識及び技能】 カメラ、編集ソフトの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 分かり易い内容での表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。				26
							合計
							78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 アートクラフト 科目 映像

教 科： アートクラフト 科 目： 映像 単位数： 2 単位 2

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（ A組： ） （ A組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 アートクラフト の目標：

【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ビデオカメラ、映像編集ソフトの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。	各種ソフトウェアの適正を考え、表現の試行錯誤をすることができる。 学んだ知識を基にして、応用できる力を身につけ実践することができる。	課題や作業を通して、より自分らしい発想力を養うことによって、主体的で個性的かつ効果的な学びを得ることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	映像機器の使用方法を理解する 【知識及び技能】 カメラ、編集ソフトの特色を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各種ソフトウェアの適正を考え、表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	映像機器の使い方と注意事項	【知識及び技能】 カメラ、編集ソフトの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各種ソフトウェアの適正を考え、表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	○	○	○	26
2 学 期	アニメーションを制作する 【知識及び技能】 カメラ、編集ソフトの基礎を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各種ソフトウェアの適正を考え、表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	アニメーション制作	【知識・技能】 基礎的知識と技能を学ぶことができる。 【思考・判断・表現】 演習を通して試行錯誤をし、判断したことを表現する力につなげることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題を通じて、個性ある作品制作ができる。より効果的かつ多面的に自己の特徴を発見し、自主的な学びをおこなうことができる。	○	○	○	26
3 学 期	自由作品を制作する 【知識及び技能】 カメラ、編集ソフトの特色と使い方の基礎を理解し、使用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各種ソフトウェアの適正を考え、表現の試行錯誤をし、応用出来る力を身につけ実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材について、著作権を理解し、有意義で個性ある作品制作ができる。	自由制作	【知識・技能】 基礎的知識と技能を学ぶことができる。 【思考・判断・表現】 演習を通して試行錯誤をし、判断したことを表現する力につなげることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題や発表の機会を通じて、個性ある作品制作ができる。より効果的かつ多面的に自己の特徴を発見し、自主的な発表をおこなうことができる。				26
							合計
							78

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 アートクラフト 科目 デッサンⅡ

教 科： アートクラフト 科 目： デッサンⅡ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ 組

教科担当者：（A組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 アートクラフト の目標：

【知 識 及 び 技 能】金属工芸技法を理解し、実材実習での制作を通してさらに造形美を探究する

【思考力、判断力、表現力等】各種材料と加工方法の適正を考え、完成に向けた試行錯誤が出来る力を身につけ実践する

【学びに向かう力、人間性等】素材を大切に扱う姿勢と個性的な造形力を養い、世に有意義な制作や活動ができる能力を身につける

科目 デッサンⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する	短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る	形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	木炭デッサンの描き方を理解し対象物を立体表現する 石膏像（胸像）	木炭紙と木炭の芯抜きの基本 立体表現の為の稜線の描き方	【知識・技能】画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する 【思考・判断・表現】短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る 【主体的に学習に取り組む態度】形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する	○	○	○	12
	石膏像（胸像）	立体表現の為の稜線の描き方		○	○	○	12
2 学 期	石膏像（胸像）	立体表現の為の稜線の描き方	【知識・技能】画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する 【思考・判断・表現】短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る 【主体的に学習に取り組む態度】形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する	○	○	○	14
	ベルヴェデーレ、ミロのヴィーナス （石膏全身像）	立体表現の為の稜線の描き方		○	○	○	16
3 学 期	ベルヴェデーレ、ミロのヴィーナス （石膏全身像）	立体表現の為の稜線の描き方	【知識・技能】画材の扱いに慣れ、人体や物の構造を意識する 【思考・判断・表現】短時間でモチーフの印象を踏まえて立体表現が出来る 【主体的に学習に取り組む態度】形に添った表現を丁寧に積み重ねて対象物を理解する	○	○	○	12
	ベルヴェデーレ、ミロのヴィーナス （石膏全身像）	立体表現の為の稜線の描き方		○	○	○	12
							合計 78